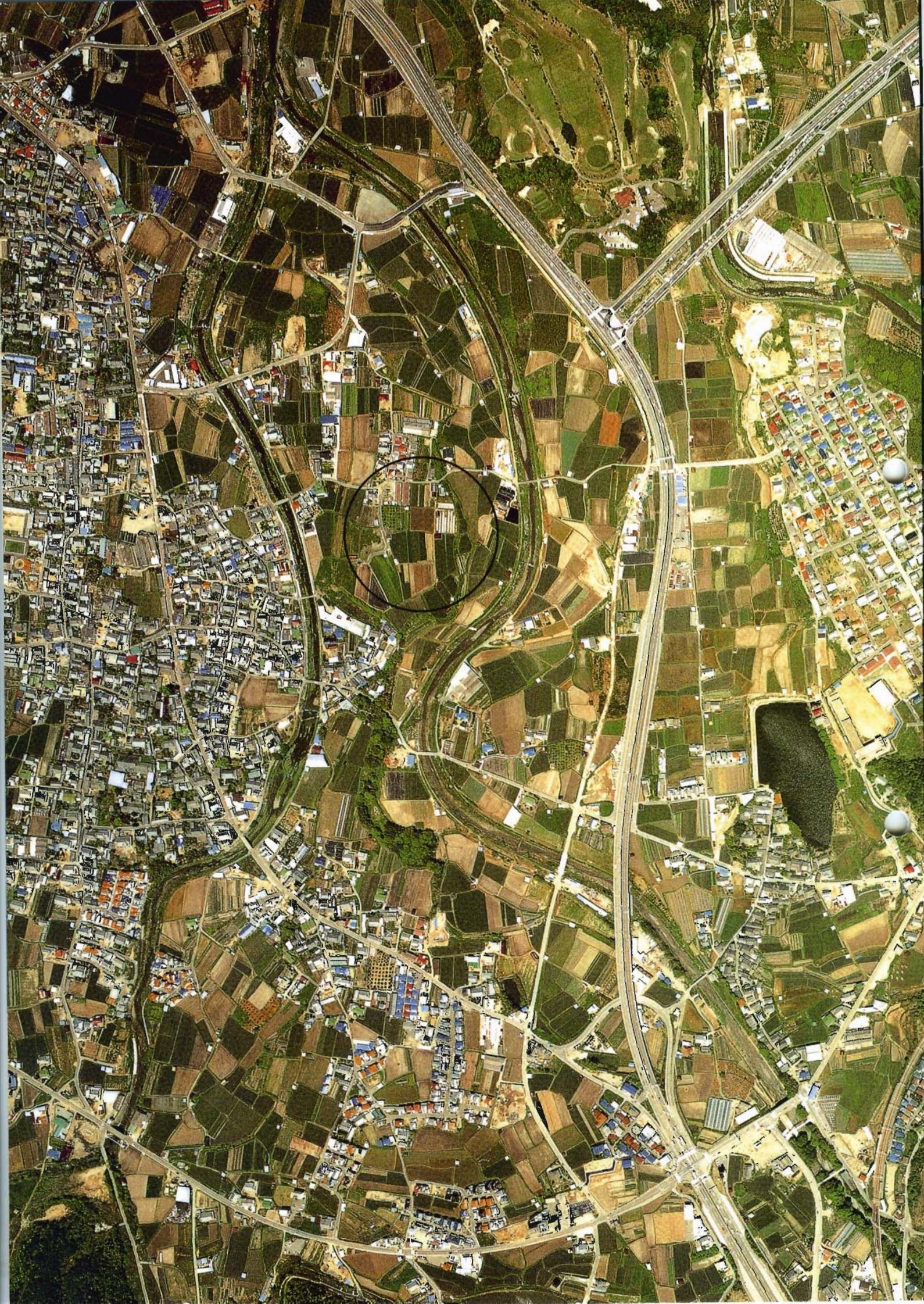


むかい で い せき
向 出 遺 跡



1998. 3. 21

(財)大阪府文化財調査研究センター



むかいで い せき 向出遺跡について

むかいで い せき はなんん し じねんだ しょざい じょうもん じ
向出遺跡は阪南市自然田に所在している縄文時

だい こ ふん じ だい い せき こんかい だい に
代から古墳時代にかけての遺跡です。今回は第二

はん わ こくどう こくどう ごうせん えんちょうこう じ さき はつ
阪和国道（国道26号線）の延長工事に先だって発

くつちょうさ おこな
掘調査を行いました。

むかいで い せき い すみさん ち はつ やまなか がわ う ど がわ
向出遺跡は、和泉山地に発した山中川と菟砥川

にはさまれたせまい平坦な台地上を中心に広がっ

ています。今回は、遺跡を断ち割るように調査を

おこない、縄文時代後期（今から3500年前）の土

こうば じめん あな ど そう はか き い
坑墓（地面にほられた穴に土葬した墓）200基以

じょう やよい じ だい こう き いま ねん まえ と
上、弥生時代後期（今から1900年ぐらい前）の竪

あにじゅうきょ あと やく とう た すう じょうもん ど き やよい ど き
穴住居跡約10棟など、多数の縄文土器や弥生土器

はつけん
などを発見しています。



縄文時代の向出遺跡

縄文時代の向出遺跡は、台地の上に当時の人々の生活の場である集落が広がり、その周辺に墓地が造られた

ものと考えられます。今回の調査では、墓地の中心部を発見することができました。

縄文時代後期後半（元住吉山式・宮滝式と呼ばれる土器が使われた時代）を中心とする時期の土坑墓には、

人の拳の大きさぐらいの石がたくさんつまつたもの、縄文土器の大きな破片が納められていたもの、縄文土器の小さな破片や小さい石が入っていたものなどいくつかの種類があり、それぞれの人の死を悼む方法にいくらかの違いがあるようです。いくつかの土坑墓が円を描いて並んでいるところもあり、血縁関係でまとまって墓を造っている可能性があります。

また、小穴（ピット）に埋め込まれたままの状態で縄文時代の祭りの道具である石棒がみつかりました。石棒は豊饒を祈るための祭りの道具といわれていますが、石棒の使われ方が具体的にわかる珍しいものです。



土器と石の入った土坑墓



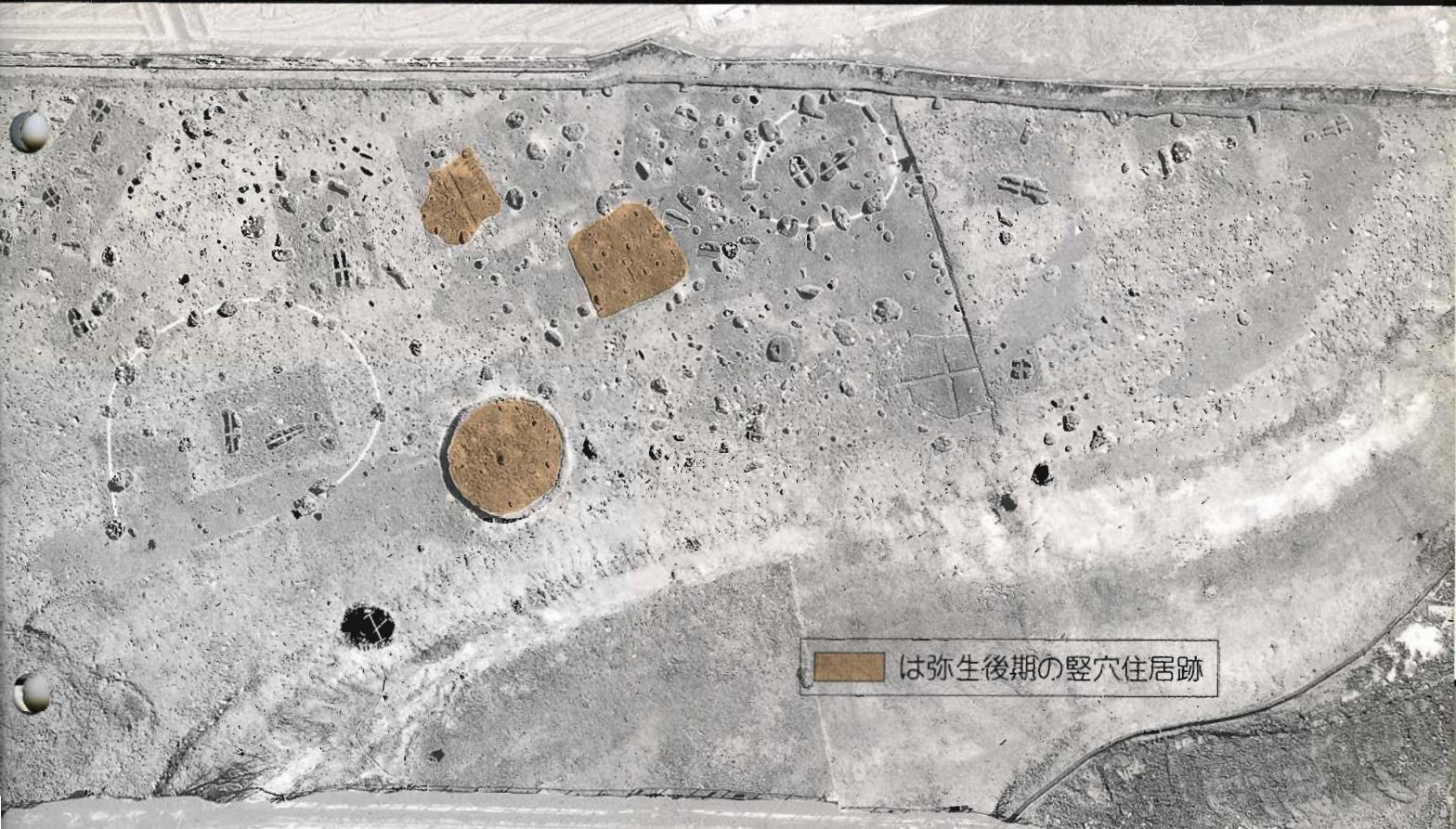
浅鉢の入った土坑墓



立ったまま出土した石樋



環状に分布する土坑墓



は弥生後期の竪穴住居跡

弥生時代の向出遺跡

縄文時代の墓地に重なって弥生時代後期の集落

跡があります。約10棟の竪穴住居跡がみつかっており、さらに周辺に広がるものと考えられます。

竪穴住居跡は直径6.5m前後の大型の円形のものと、一辺4.5m前後の小型の方形のものの二種類があり、当時のムラの形を考える重要な資料となります。

この時代の集落は稻作に適した場所から離れ、台地や丘陵に移動するといわれます。向出遺跡の

弥生集落はその典型的な例といえます。

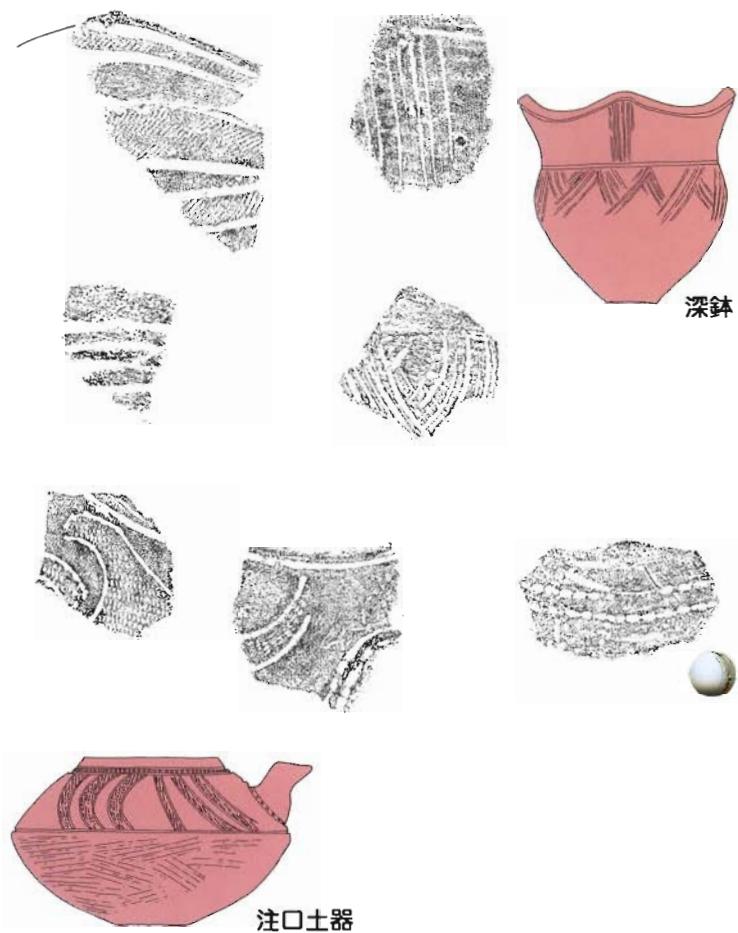


調査区全景（北より）

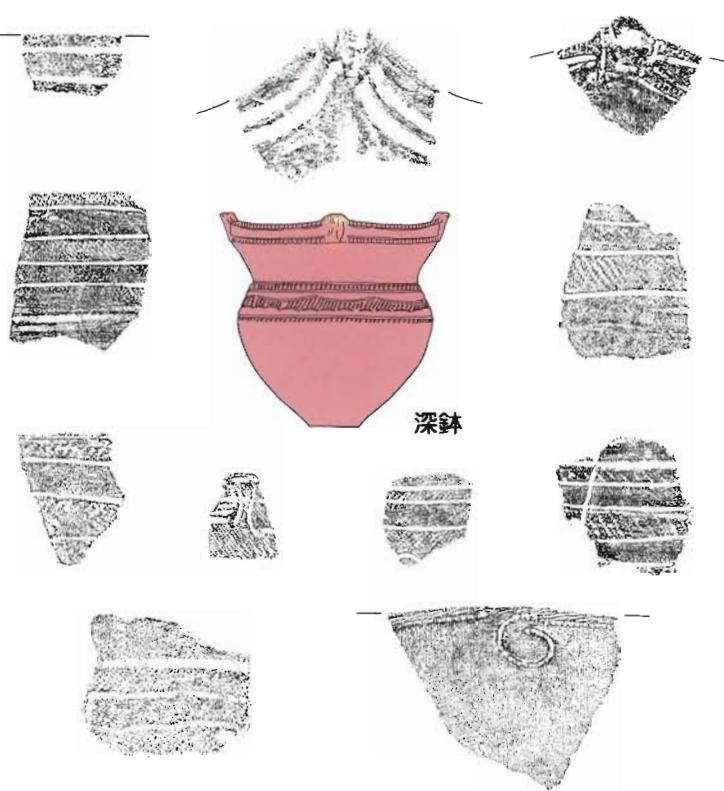
縄文後期前半



向出遺跡の縄文土器

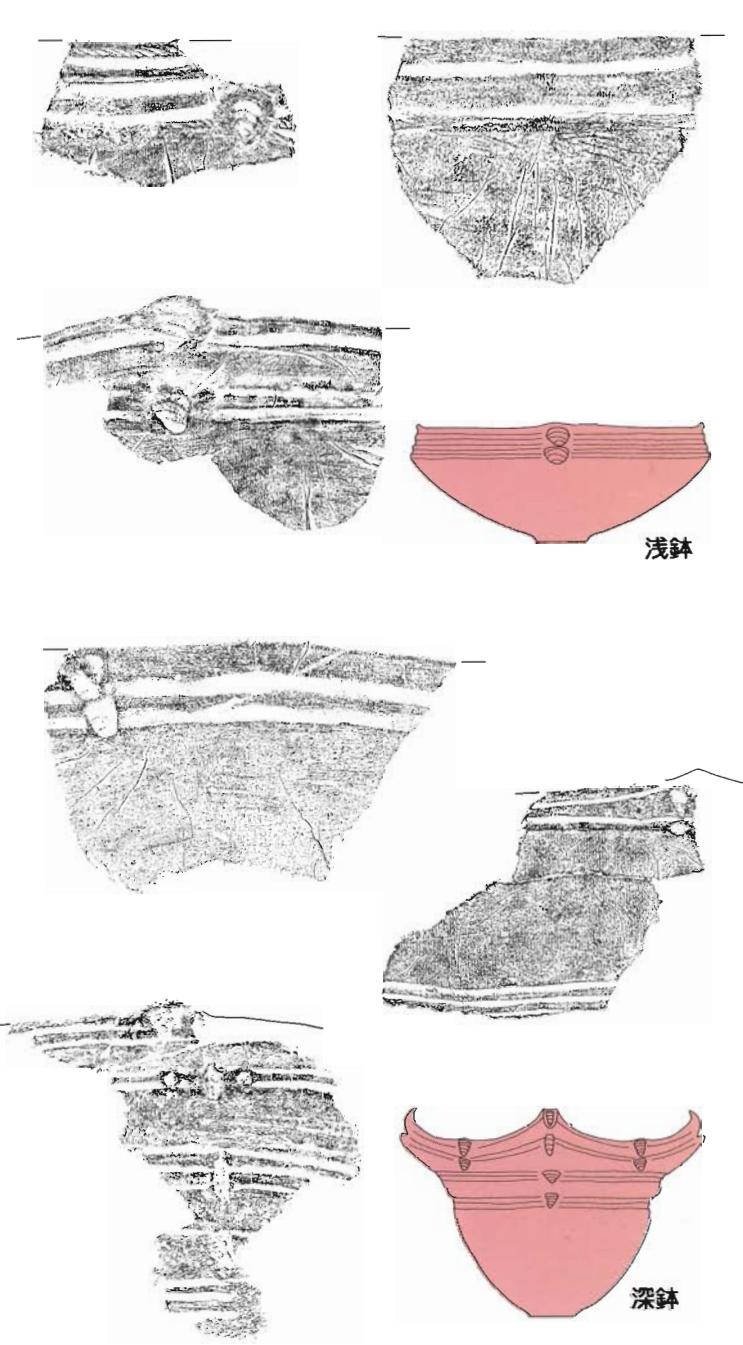


縄文後期後半

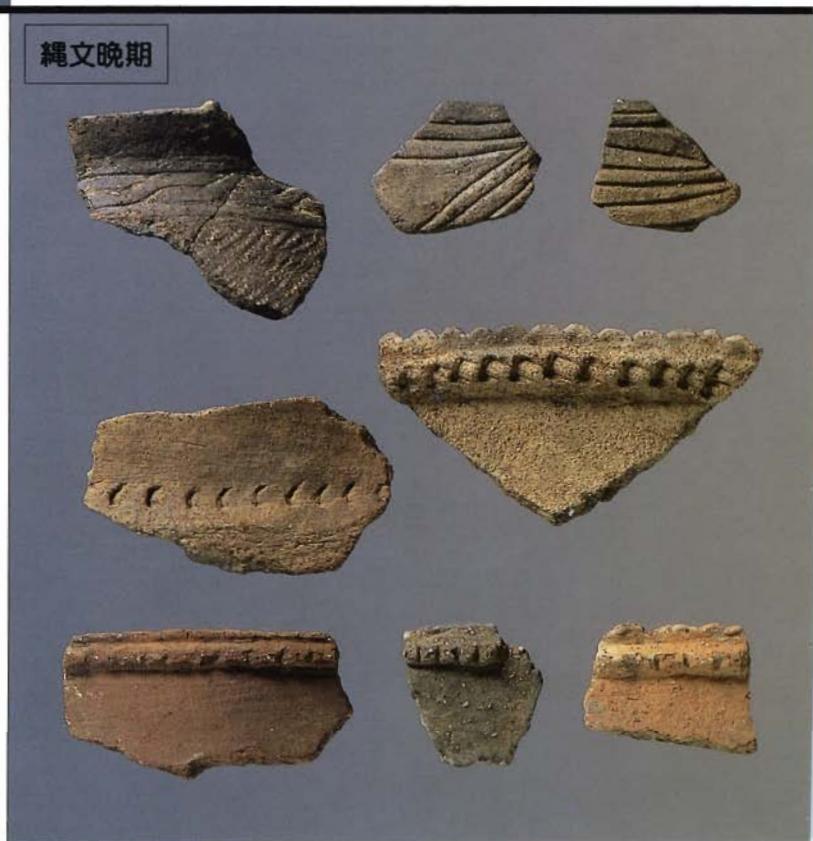
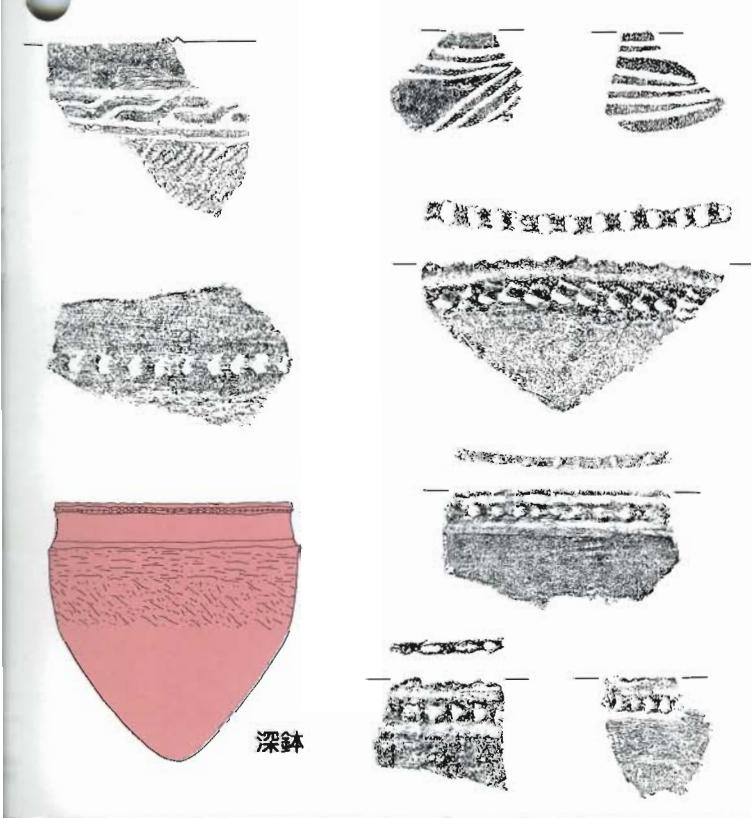


じょうもん ど き
縄文土器は、深鉢と浅鉢を基本として、後
期になると注口土器などバラエティーに富ん
だ形の土器をつくるようになります。

縄文後期末



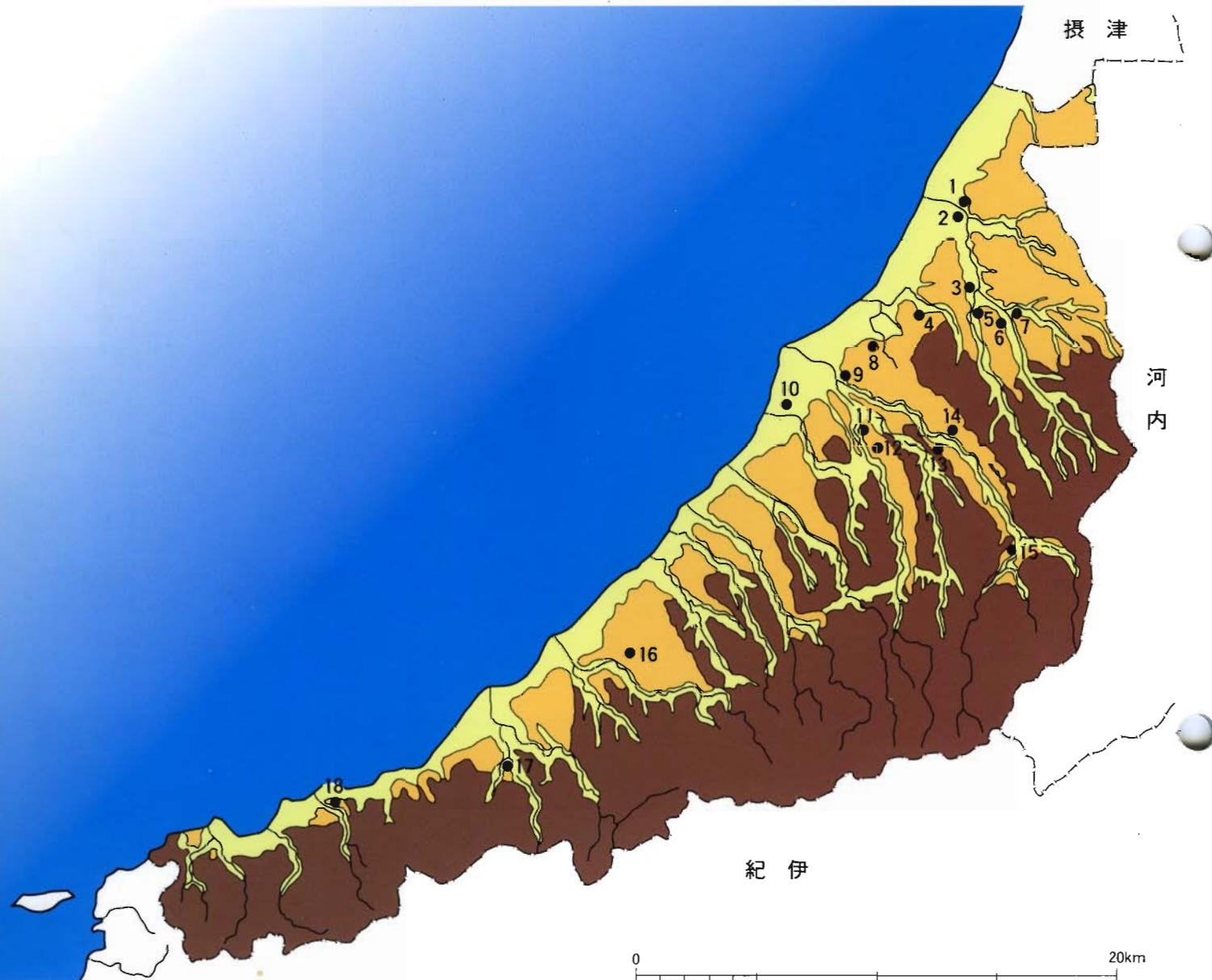
縄文晩期



まとめ

今回調査を実施してみつかった縄文時代の遺跡は5000m²の広さをもちますが、さらに数倍の面積に広がるものと推定されます。向出遺跡は、面積からして近畿地方で有数の縄文時代後期の遺跡であることは間違いないありません。発見された土坑墓群は、今後の研究によって縄文時代後期の社会の仕組みをわたしたちに教えてくれる重要な遺跡であると考えられます。

和泉地域の主な縄文時代後期の遺跡



向 出 遺 跡 向出遺跡現地説明会資料

発 行 (財)大阪府文化財調査研究センター
〒536-0016 大阪府城東区蒲生2-11-3 小森ビル4階

発行日 1998年3月21日
印 刷 (株)中島弘文堂印刷所